

The Dickens Lexicon ProjectとLexiconの利用法 コンピュータを利用した英語学習と研究の紹介を含む

堀 正広・田畑智司・今林 修
西尾美由紀・地村彰之

本論は平成22年1月7日（木）に行われた大阪大谷大学英文学会主催の講演・講習会に加筆訂正を施したものである。この講演・講習会の中心的な内容は、大阪大谷大学の前進大谷女子大学の元教授山本忠雄博士が構想した*Dickens Lexicon*作成のためのプロジェクトであるThe *Dickens Lexicon Project*の紹介と現状の報告である。このプロジェクトは平成20年度から3年間、科学研究費補助金に採択された「多機能搭載型電子版ディケンズレキシコン作成とその活用研究」（研究課題番号：20520451）で、平成22年度に最終年度を迎える。今回の講演・講習会では、コンピュータを利用した英語学習と研究方法の紹介も行った。講演・講習会は下記のような構成で行われた。

構 成

- | | |
|--|--------------|
| I. 講演・講習内容説明 | 堀 正広（熊本学園大学） |
| II. コンピュータを利用した英語学習と研究の方法ー多機能型テキスト分析ポータルTAPoRへの招待ー | 田畑智司（大阪大学） |
| III. The <i>Dickens Lexicon Project</i> の概要 | 今林 修（広島大学） |
| IV. 一般的なイディオムとLexiconのイディオムについて | 西尾美由紀（近畿大学） |
| V. Lexiconを利用したDickensの言語研究 | 堀 正広（熊本学園大学） |
| VI. イディオムの変遷-ChaucerからDickensへ | 地村彰之（広島大学） |
| VII. Digital Humanities 2010におけるポスターセッションの報告 | 堀正広 |

本論は上記のような構成にしたがって報告する。当日の雰囲気伝えるために論文のスタイルではなく講演の際の口語スタイルで報告することをお許しいただきたい。本論の最後には本プロジェクトである*The Dickens Lexicon Project*の成果報告の一つとして、英国ロンドンで開催された*Digital Humanities 2010*でポスターセッション（ポスターによる研究発表）を行った際の簡単な報告を行う。

I. 講演・講習内容説明

堀 正広

本日は大阪大谷大学の前身である大谷女子大学の元教授山本忠雄博士のライフワークだった*Dickens Lexicon*の作成についてお話をいたします。山本博士は*Dickens Lexicon*の完成を夢見て約6万枚のカードを作成されましたが、志半ばで1991年に他界されました。その志を継いで、1998年に*Dickens Lexicon Project*が広島大学と熊本大学の卒業生であり、研究者である20名で結成されました。本プロジェクトは単に山本先生のカードを復元するだけでなく、コンピュータの様々な機能を駆使して山本先生が考えておられた*Lexicon*を現代に生き返らせたいと考えています。その詳細は今林講師の発表で紹介されます。本日はまず、これまでの*Dickens Lexicon*作成の経緯、特徴、現状そして展望をお話しし、さらに*Lexicon*の活用の可能性についてお話しさせていただきます。また、イディオムの変遷について具体的な例を取りながらChaucerの時代からDickensへどのように一貫性と変化がみられたかについてもお話しいたします。